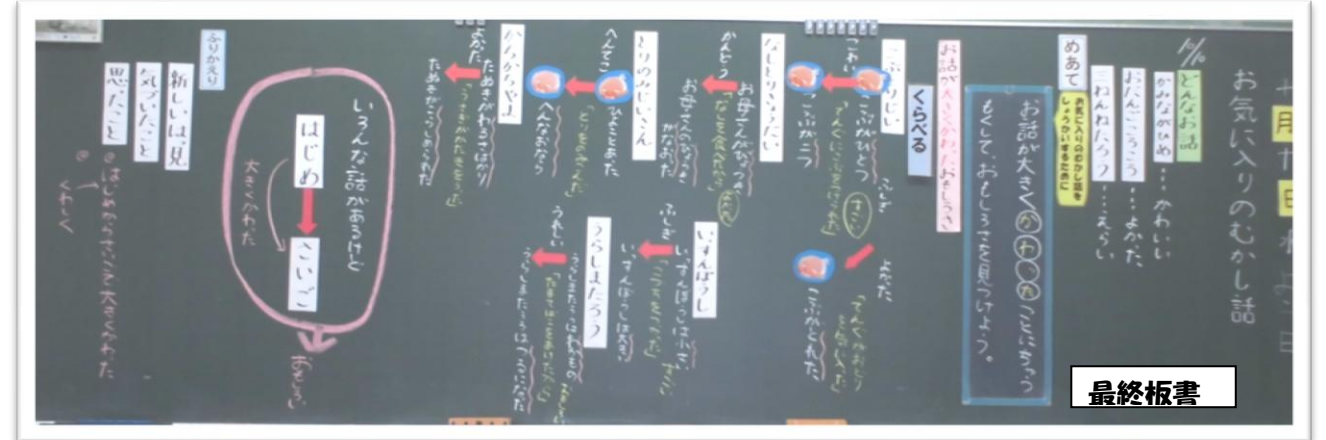


## 第2次6時間日本時の授業より



気が付けば、10月も中旬になりました。あと半月で研究発表会です。今回は、初任者の武田先生の公開授業についてまとめました。この授業は、研究発表会でされる2年生の授業の先行授業です。低学年ブロックの先生方は、1学期の終わりから何度も頭を突き合わせて「かさこじぞう」の教材研究・指導案作成を行っていました。今回校内研で先行授業を行い、他の部会の先生方からもご意見をいただくことで、さらに質の高いものを発表できればと考えています。

単元名：「昔話大すき玉手ぼこ」～お気に入りの昔話を紹介し合おう～

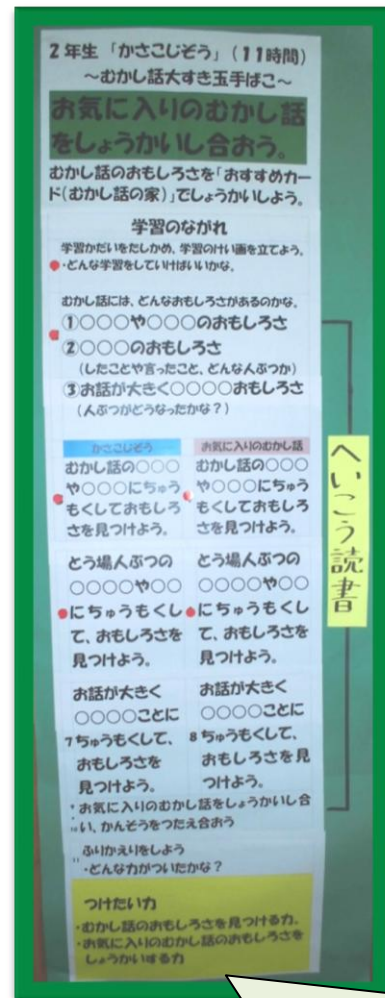
教材名：「かさこじぞう」(東京書籍2年下)

研究授業：2年2組 武田 北斗教諭

身に付けさせたい資質・能力

- 【知・技】(3)** ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。  
エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。
- 【思・判・表】C** オ 文章の内容と自分の体験を結びつけて、感想を持つこと。カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。
- 【学びに向かう力】** 様々な昔話を楽しんで読書をし、お気に入りのところを見付けたり、紹介したりしようとする。

### 学習の流れ



### 第1次1時間目の授業より



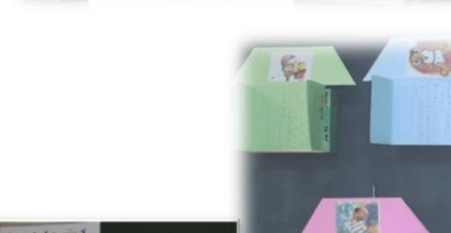
もっと昔話をみんなに読んでもらいたいのだけど、2年生が学校みんなに昔話のおもしろさを教えてくださいませんか？

図書室の土居先生からのお手紙を読み終わると「やりたい！」という良い反応があり、目的意識と意欲を持って課題に取り組めるよいスタートとなりました。

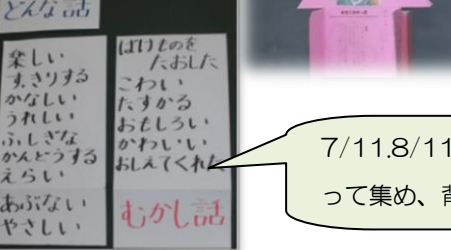


先生が読んだ昔話でおもしろかったのは、このお話です。「かっぱの手紙」は・・・

先生の「おすすめカード」(モデル)を拡大したものを提示して、単元のゴールと付けたい力を示しました。



おもしろさの観点によって、色別にしたおうち型のおすすめカードです。後ろに箱がついていて、カードの感想を入れてもらえるようになっています。



7/11,8/11 時間目に使いたい言葉を前もって集め、背面黒板に掲示していました。

第2次は、教材文で学習したことをすぐに活用できる、習熟の場→活用の場の単元構成になっています。

### 研究協議より

- 資** ○ゴールが明確で子ども達がわくわくする成果物(おすすめカード)になっている。図書担当の先生からのお願いに応え、おもしろさを伝えるという目的があり、子ども達の学習意欲を高めるしかけがある。言語活動を通して、3つの観点で昔話のおもしろさを見つけ伝える力を付けたい
- 目** ▼ペアやグループで発表する時、「発表の手順」をシール等を使って視覚的に示してあげることが大切。  
▼全体共有では、聞くだけでは思い出せない子どもがいたので書画カメラの活用を取り入れてみては。  
▼オの指導事項の知識や体験と結び付けるところが難しい。「自分なら・・・」を入れると、道徳的になってしまう気がする。今までに読んだ本の読書体験で語らせると比較したり、共通点を見つけたりできるのではないかな。  
▼もっとほかの昔話を聞いてみたくするために、発表の取り上げ方を工夫してみては。  
▼変わったわけ＝おもしろさにつながるのか。カードの～のわけが書きづらくあらずじになりがち。もっと自分の言葉で語らせられるよう、カードの様式の見直しも必要ではないか。
- 主対深** ○友だちの話を熱心に聞いていたことで、友だちの意見を参考にした振り返りが書けていた。  
▼問い返そうとする姿勢が見られたが、問い返しができず、深まらないペアもあった。  
▼昔話ははじめ→おわりが大きく変わっているけど、全部そうかな？と揺さぶりの発問をするともっと深まるのではないかな。
- 言** ○主語を意識させることで、大きくずれることがなかった。

### 授業者のリフレクションより

- 資** かさこじぞうのカードと比べて、お話が大きく変わったことに着目した学習はできていたが、おもしろさに繋げていくためには、「もっと聞きたい」と思わせるようにカードにはもっと短く簡単に書かせるなどの工夫をすればよかった。
- 主対深** 1～6年生におすすめカードで昔話のおもしろさを紹介したいという思いから、主体的な学びになっていた。積極的にカードを作り、ペア対話も行っていたが問い返し等でもっと深い学びにできたのではないかなと思った。
- 言** 昔話の本文に戻ることで、言葉に注目することができた。「こういった言葉から・・・」という発表にもチャレンジしていきたい。

事後研で明らかになった課題を受けて、翌日の放課後も低ブロックで集まって、改善方法を検討されていました。最後まで研究を重ねる低学年ブロックの先生方の熱意が30回にも届きそうな指導案の改善の数で分かります。初任者の武田先生にとっては、夏休みからの長丁場は荷が重かったかもしれませんが、ブロックで何度も指導案を見直したり、板書を工夫したりと学ぶことがたくさんあったのではないかなと思います。武田先生が頑張った分、2年2組の子どもたちは授業を楽しみ、先生の頑張りに応えようとしていたように感じました。武田先生ありがとうございました。